

出品番号 32 作者名：矢花 俊樹 作品名《「MOMAS の扉」ワークショップの記録》

はじめに

2014 年 4 月から 2017 年 3 月まで埼玉県立近代美術館にて教育普及事業を担当した。その 3 年間で私が企画・実践した教育普及プログラム「MOMAS の扉」と現在に至るその後の活動までの 40 のワークショップをまとめた。この記録がワークショップの企画・運営に携わる方の参考となれば幸いである。

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント

埼玉県立近代美術館の目指すものとして、職員証の裏面に記されている。これは勿論「MOMAS の扉」の目指すものでもある。

1. 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
2. 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
3. 未来を作る子どもたちの感性と創造力を育みます。
4. 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

鑑賞 + 制作

「MOMAS の扉」の特徴は、美術作品の鑑賞と鑑賞後に行う参加者の制作が結びついていることである。この鑑賞と制作が一体となったプログラムは埼玉県立近代美術館の教育普及チームが探究しているもので、参加者が鑑賞の楽しさと美術作品の素晴らしさを味わい、感性と創造力を育み、鑑賞や制作する楽しさを実感することをねらいとしている。そして、生涯に渡り美術作品の鑑賞や制作を愛好することに繋がることを願っている。

対話による鑑賞

私が行っている鑑賞は「対話による鑑賞」をベースとしている。複数の鑑賞者と、作品から感じたことや考えたことを伝え合いながら、鑑賞を深めていくものである。ここで重要なことは、ファシリテーターの発問である。鑑賞者が作品について自由に思いを巡らせることのできる発問や、主題に迫っていく発問を工夫している。みんなで楽しくおしゃべりをする感覚で感じたことや考えたことを伝え合い、鑑賞する楽しさを実感できるよう心掛けている。

プログラムの独自性

子供達に「ここでしかできない体験をして欲しい。」という思いがある。図工・美術の題材や、普段の生活で経験できることを美術館でする必要はない。自ずと学校ではなかなか扱わない材料や道具、技法を取り入れるようになり、オリジナルの材料や技法、題材の考案にも至った。また、身体全体を使って鑑賞や制作をする身体性、親子プログラムの際のインタラクティブ性、制作した作品の見せ方や鑑賞会の演出等を意識した。図工・美術と他教科を横断的に学ぶ、クロスカリキュラムの視点も考慮した。時間的制約のある中、これらの工夫をワークショップの「スライス」として取り入れながら構成した。さらに、参加者の年齢層が幅広いことから、小学校 1 年生にもできて、大人がやっても楽しめる鑑賞や創作活動となることを常に心掛けた。その結果、独創的なワークショップが企画・実践できたのではないだろうか。

美術館での勤務を終えて

学校教育現場に戻った今、教員として学校教育でできることと、SMF のメンバーとして社会教育でできることを模索しながら活動している。これからも、埼玉県立近代美術館での経験を大いに生かし、アートの布教活動に専念していきたい。

No.14 「おしゃれな枢機卿になろう」

2015.06.06 み〜っけ！〔未就学児 + 保護者〕(120 分) 参加者 28 名

鑑賞作品 ジャコモ・マンズー 《枢機卿》



鑑賞

コスプレによる同一化

み〜っけ！は未就学児と保護者対象のプログラム。お子様の美術館デビューに最適です。「この人は何をしているのかな？」と問いかけると、「バスタオルをまいている。寒いのかな？お風呂上がりかな？」「床屋さんで髪の毛を切ってもらっているのかな。」など、未就学児ながら自分の生活経験と重ね合わせて作品から感じ取っています。「みんなも同じ格好をして、この人になってみましょう！」といて、マントと烏帽子を配り、お家の人に着せてもらいます。実はこの人、神様に「平和な世界になりますように。」とお祈りしている人なんですよ。

「目を閉じて。みんなもお願いしてみましょう！」皆、気分は枢機卿！真剣にお祈りしています。「何をお祈りしたの？」と尋ねると、「家族みんなが長生きしますように。」「みんなが幸せでいられますように。」と、優しさに溢れる願い事がたくさん聞けました。



まさには、光の国でお給描きをしている気分です。これには親子で大興奮。もっともっと光らせようと、制作に夢中になる子供の姿を見つめる親の眼もキラキラ輝いていました。

鑑賞会

最後は、光るマントと光る烏帽子を身にまとい鑑賞会です。エンヤの音楽にのせて、教会の中をゆっくりと枢機卿が歩くように入場し、幻想的なファッションショー形式の鑑賞会を楽しみました。おしゃれな枢機卿が勢揃い！とっても感動しました。

幻想的な演出・BGM



真っ白なマントと烏帽子では少しさみしいですね。ここは美術館。思いっ切りおしゃれな自分だけのマントと烏帽子にしちゃいましょう！未就学児はなかなか使うことが少ない水彩絵の具と絵筆ですが、お家の人やミューコラ生のサポートにより上手に使いこなしていきます。親子一緒にたくさんの模様を描いていくと突然創作室の電気が消えます。

停電

「あっ、停電だ…」親子で少し不安な様子。次の瞬間、ブラックライトが点灯すると「わぁ〜きれい〜！絵が光りだしたよ！」そう、使っていた絵の具はアクリルガッシュ蛍光色！パレットや筆先、絵の具が付いた指先まで光ります。「光で描いているみたい。」

ブラックライト



出品番号 33 作者名：矢花 俊樹 作品名《旅へ誘う虫たち》

人生を懸けて、リアルな虫を作り続けること。。。。

あの日、あの場所で出会った虫…
記憶の中の虫たちが、
あなたを、あの日、あの場所へと導いてくれます。
さあ、虫たちと一緒に、時空を越えた旅に出よう！
サウダージ



material silver950
size 生体昆虫と同じ

出品番号 34 指導者：矢花 俊樹 作品名《自然豊かな未来の蔵》

制作 蕨市立北小学校第3学年 87 名 指導・協力 蕨市美術連盟

鑑賞 2018.10.17 制作 10.31 受賞 第 50 回蕨市公募美術展覧会 絵画部門 蕨市美術連盟会長賞

縦 2.5m×横 10m

はじめに 本題材は、蕨市美術連盟の指導・協力を得て、蕨市内の小学校が毎年順番に取り組んでいる ビッグ・アートの制作である。画用紙のサイズは 縦 2.5m×横 10mである。導入で蕨市在住の画家、智内兄助氏の作品鑑賞を行い、身近な美術作品のよさや美しさ、表したいことなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げ、構想・制作に繋げる題材である。鑑賞活動も制作も、新学習指導要領解説 指導計画作成上の配慮事項「共同してつくりだす活動」に当たり、お互いに鑑賞や表現を高め合う題材である。

鑑賞 鑑賞作品 智内 兄助《Galaxie I》



身体性

制作 「各自、昆虫か植物を 1 点描く。描いた生き物は自分自身でもあるんだよ。」と声を掛け、イメージを膨らませた。6 人選抜で画用紙に寝かせ、全身トレースを行い、プロポーションの美しさを体感した。ドリップングや点描、ローラーなど、既習事項を生かした創造的な技能が多く見られた。

既習事項

鑑賞会 制作途中で鑑賞を行い、互いの発想や表現技法を共有し、その後の活動に生かした。完成後の鑑賞会は インタビュー形式で行い、工夫したことやどんな思いで描いたかを発表し合った。



共同制作



インタビュー

